聖書の祈りが私の祈りになる（旧約編）

第５章　ソロモンとイスラエル後期のリーダーたちの祈り②

エリヤ　強力で、聞かれる祈り　神がどのような方かを思い出させる祈り

祈りについて、エリヤほど高い評価を得ている人はほとんどいません。エリヤが自らの信じる神に祈ると(「エリヤ」という名前は「私の神はヤハウェ」という意味)、結果は常に素晴らしいものとなりました。

そのような結果をもたらしていた理由の一つとしては、列王記第一 17 章 1 節に見られるように、エリヤと神との間に常に交わりを絶やさない関係があったことが挙げられます。

> 「…ティシュベ人エリヤはアハブに言った。『私の仕えているイスラエルの神、主は生きておられる。私のことばによらなければ、ここ二、三年の間は露も雨も降らないであろう』」。

「私の仕えている」というくだりは、少なくとも神に対するエリヤの個人的な関係と、彼が神の代理として立っていることを示すものとなっています。また、彼が神から習慣的に導きを与えられていることと、神との交わりを示すものにもなっています。

強力で、聞かれる祈り

人生の様々な場面における神の御手やご計画については、必ずしも常に正確に測れるものではありません。死からよみがえらされるためだけに死んだ、やもめの息子の話も、その一つです。私たちはただ、「鏡にぼんやり映るもの」(I コリント 13:12)を見ているだけなのです。

> 彼(エリヤ)は主に祈って言った。「私の神、主よ。私を世話してくれたこのやもめにさえもわざわいを下して、彼女の息子を死なせるのですか。」そして、彼は三度、その子の上に身を伏せて、主に祈って言った。「私の神、主よ。どうか、この子のいのちをこの子のうちに返してください。」　主はエリヤの願いを聞かれたので、子どものいのちはその子のうちに返り、その子は生き返った。(I 列王記 17:20-22)

やもめの立場からすると、一人息子の突然の死は、彼女が若い頃に犯した何らかの罪、記憶の密かな小部屋に長く埋葬されていたものに対する罰なのでした。神は必要な悔い改めを得ようとして、また、それによってその人の魂をさらなる崇高な高みへと導こうとして、そのような方法を採ることがあるのです。それを否定することは、誰にもできません。しかし、ここで思い起こさなければならないことは、人の人生の不測の事態を利用し、はるか過去に既に赦され、きよめられている罪に対する自責の念を生じさせようとする者、それを喜んでいる熟練の戦略家は、サタンだということです(ローマ 8:1、33-34 を参照)。

エリヤもまた、祈る中で、この人の息子を殺したのはあなただと、誤って神を責めてしまっていたかもし

れません。母親も預言者も、人間としての感情と限界に束縛された存在です。最も考えられることとしては、二人ともこの息子の死の原因を十分には認識してはいなかったということ、すなわち、この例における神の唯一の目的は、ご自分の奇跡的な力を示し、ご自分の栄光を顕されることであったという可能性です(ヨハネ 9:3、11:4 を参照)。神が悲劇を起こされた、あるいは、悲劇が起こるのをお許しになった理由については、私たちの問でも判断が分かれることでしょう。しかし、その問題の解決を神にお願いすることが、なすべきことであるのは確かです。私たちが容易に犯してしまいがちな過ちは、結論を導き出してしまったうえで祈るということです。しかし、結論を保留したほうが、無用な苦しみから守られ、神を誤った形で責めてしまうことから守られるのかもしれません。

エリヤが子どもの上で全身を伸ばした理由については、いろいろと推測する人々もあります。しかしここでは、彼がこの行為によって、神からの必要な介入をいただこうと必死であったこと、全身全霊で取り組んでいたことを示していると理解するだけで十分でしょう。信仰が行動に移された姿であることは確かです。神がご自分の無限の力を自由にお示しになるとき、人間的には不可能なはずのことが現実のものとなるのです。エリヤの尋常でないふるまいは、祈りが答えられた原因となったのではありません。祈りが答えられるのを仲介するものだったのです。

「義人の祈りは働くと、大きな力があります」(ヤコブ 5:16)。エリヤは、聖霊によって語られたこの言葉がその通りであることを示す優れた模範でした。死んだ子どものことを神に強く願いながら、エリヤの思いはただ一つでした。誠心誠意の願いに全てを注ぎ込んでいたのです。願い求めたままの結果が得られたのが、その叫びのゆえであることに疑いの余地はありません。「私の神、主よ。どうか、この子のいのちをこの子のうちに返してください」(I 列王 17:21)。エリヤの祈りは、私たちが受け入れられる祈りの型とは一致しないかもしれません。それはただ、それ以外に選択の余地の無い、その場での奇跡を求める祈りでした。しかし、主は聞いて、答えてくださったのです。

神がどのような方であるかを思い出させる祈り

エリヤとバアルの 450 人の預言者は、主とバアルのどちらが神であるかを証明すべく、人々の前に立っていました。人々は、これは良い機会になると考え、準備をしました。預言者たちは朝から晩までバアルに呼ばわりましたが、何の答えも得られませんでした。代わってエリヤが進み出て、祈り始めました。

> アブラハム、イサク、イスラエルの神、主よ。あなたがイスラエルにおいて神であり、私があなたのしもべであり、あなたのみことばによって私がこれらのすべての事を行ったということが、きょう、明らかになりますように。私に答えてください。主よ。私に答えてください。この民が、あなたこそ、主よ、神であり、あなたが彼らの心を翻してくださることを知るようにしてください。(I 列王記 18:36-37)

神にどう呼びかけるかは、祈りの結果に少なからぬ影響を与えます。それは、祈る人々の内に信仰を生み出し、その祈りを聞く人々の心を目覚めさせます。**神がどのような方なのかを認識することで、**神がおできになることへの信仰が築き上げられるからです。神はバアルのような神ではありません。バアルは、その預言者たちが心の限りを尽くし、執拗に応答を願い求めたにもかかわらず、何も答えることができませんでした。対照的に、エリヤの信じる神は、アブラハム、イサク、イスラエルの神でした。これらの父祖たちは、祈りに対して超自然的な答えをいただいていました。聖書を見ると、神をアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神とする呼び方が用いられているのは、これ以前にはただ一度だけです(訳注・実際には出 3:15,16、

4:5 もあり)。その例においてそれを用いているのは神ご自身であり、燃える柴の場面においてでした(出 3:6 を参照)。私たちの祈りは、神をそのご性質に従ってお呼びすることにより、豊かなものとされ得るのです(エペソ 1:17 におけるパウロの祈りを見てみてください。「私たちの主イエス・キリストの神、すなわち栄光の父」)。

エリヤの単純な祈りは、天からの明白な即答をいただくところとなりましたが(38-39 節)、これは、この偉大な預言者の抱いていた情熱の中核を明らかにするものとなっています。**祈りは心を映し出す鏡**であり、それは、私たちにとっても同様です。エリヤにしてみれば、イスラエルの民は ①神がどのような方かということと ②エリヤの権威の源がどこにあるかという、二つのことを知らなければなりませんでした。彼らはイスラエルの神を知らなければなりませんでした。**「あなた(アブラハム、イサク、イスラエルの神)がイスラエルにおいて神であり、…ということが、きょう、明らかになりますように」**と記されている通りです。というのも、王の愚かさのゆえに、人々にはひどい混乱がもたらされていたからです。また、エリヤがその使命を自分で決めたのではなく、神のしもべに過ぎず、命令されたことをただ行なっているのだということも、理解されなければなりませんでした。「私があなたのしもべであり、あなたのみことばによって私がこれらのすべての事を行ったということが、きょう、明らかになりますように」。

エリヤの目指すところはただ、この人々の心をまことの神に立ち返らせることだけでした(18:37)。今日、世界中の人々の心の中に、同様に、神に立ち返る心を生じさせるためには何が必要でしょうか。そのためには、エリヤの日のような超自然的なわざの現れが必要かもしれません。エリヤの祈りに続いて起こったことにより、人々の心はまさに、まことの神に立ち返りました。

天から火が降り、いけにえとたきぎ、石、ちり、水さえも焼き尽くしてしまったのです。「民はみな、これを見て、ひれ伏し、『主こそ神です。主こそ神です』と言った」(18:39)。彼らは文字通り、「主こそ神(ただお一方のまことの神)です」と言ったのです。そして逆に、バアルは神などでは全くないということに気づいたのでした。

質問

1. エリヤと神の間に常に交わりがあったのでエリヤは祈ることができました。エリヤが「私の仕えている神」と言うとき、そこにはどんなことが含まれていましたか？　　あなたも、エリヤと同じように「私の仕えている神」と言えますか？

2. 息子を亡くした母親もエリヤも、その子の死の原因を十分に認識していなかったようです。このような時に犯しやすい過ちは何でしょうか？　それはどうして過ちになるのでしょうか？

3. 死んでしまった息子のためにエリヤは祈りました。　あなたは、エリヤの祈りの姿勢からどんなことを学ぶことができますか？

4. 神にどう呼びかけるかは、どうして祈りの結果に影響をあたえることになりますか？　あなたは、どのように神に呼びかけて祈ることが必要だと思いますか？

5. エリヤの祈りが目指すところは何でしたか？　今日のこの世界において、あなたの祈りが目指すところは何でしょうか？

6. 今日読んだ箇所から、あなたは祈りについてどんなことを教えられましたか？　どんなことを実践したいと思いますか？

祈り

主なる神さま。あなたとの親しい交わりが祈りの鍵であることを悟らせて下さい。あなたがどういう方であるか、はっきりと知ることができますように。あなたの無限の可能性を、私の勝手な思いで狭くしてしまうことのないように。人々の中に、あなたに立ち返る心を生じさせる祈りができますように。